

# 2022年 3月 13日(日) 関東学院教会 主日礼拝 説教要約

## 説教「剣をさやに納めなさい」 ヨハネによる福音書 18章1-27節 高橋彰

### ◆裏切られ、逮捕される

**18** 1 こう話し終えると、イエスは弟子たちと一緒に、キドロン谷の向こうへ出て行かれた。そこには園があり、イエスは弟子たちとその中に入られた。2 イエスを裏切ろうとしていたユダも、その場所を知っていた。イエスは、弟子たちと共に度々ここに集まっておられたからである。3 それでユダは、一隊の兵士と、祭司長たちやファリサイ派の人々の遣わした下役たちを引き連れて、そこにやって来た。松明やもし火や武器を手に入っていた。4 イエスは御自分の身に起こることを何もかも知っておられ、進み出て、「だれを捜しているのか」と言われた。5 彼らが「ナザレのイエスだ」と答え、イエスは「わたしである」と言われた。イエスを裏切ろうとしていたユダも彼らと一緒にいた。6 イエスが「わたしである」と言われたとき、彼らは後ずさりして、地に倒れた。7 そこで、イエスが「だれを捜しているのか」と重ねてお尋ねになると、彼らは「ナザレのイエスだ」と言った。8 すると、イエスは言われた。「『わたしである』と言ったのではないか。わたしを捜しているのなら、この人々は去らせなさい。」9 それは、「あなたが与えてくださった人を、わたしは一人も失いませんでした」と言われたイエスの言葉が実現するためであった。10 シモン・ペトロは剣を持っていたので、それを抜いて大祭司の手下に打ってかかり、その右の耳を切り落とした。手下の名はマルコスであった。11 イエスはペトロに言われた。「剣をさやに納めなさい。父がお与えになった杯は、飲むべきではないか。」

### ◆イエス、大祭司のもとに連行される

12 そこで一隊の兵士と千人隊長、およびユダヤ人の下役たちは、イエスを捕らえて縛り、13 まず、アンナスのところへ連れて行った。彼が、その年の大祭司カイアファのしゅうとだったからである。14 一人の人間が民の代わりに死ぬ方が好都合だと、ユダヤ人たちに助言したのは、このカイアファであった。

### ◆ペトロ、イエスを知らないと言う

15 シモン・ペトロともう一人の弟子は、イエスに従った。この弟子は大祭司の知り合いだったので、イエスと一緒に大祭司の屋敷の中庭に入ったが、16 ペトロは門の外に立っていた。大祭司の知り合いである、そのもう一人の弟子は、出て来て門番の女に話し、ペトロを中に入れた。17 門番の女中はペトロに言った。「あなたも、あの人の弟子の一人ではありませんか。」ペトロは、「違う」と言った。18 僕や下役たちは、寒かったので炭火をおこし、そこに立って火にあたっていた。ペトロも彼らと一緒に立って、火にあたっていた。

### ◆大祭司、イエスを尋問する

19 大祭司はイエスに弟子のことや教えについて尋ねた。20 イエスは答えられた。「わたしは、世に向かって公然と話した。わたしはいつも、ユダヤ人が皆集まる会堂や神殿の境内で教えた。ひそかに話したことは何もない。21 なぜ、わたしを尋問するのか。わたしが何を話したかは、それを聞いた人々に尋ねるがよい。その人々がわたしの話したことを知っている。」22 イエスがこう言われると、そばにいた下役の一人が、「大祭司に向かって、そんな返事のしかたがあるか」と言って、イエスを平手で打った。23 イエスは答えられた。「何か悪いことをわたしが言ったのなら、その悪いところを証明しなさい。正しいことを言ったのなら、なぜわたしを打つのか。」24 アンナスは、イエスを縛ったまま、大祭司カイアファのもとに送った。

### ◆ペトロ、重ねてイエスを知らないと言う

25 シモン・ペトロは立って火にあたっていた。人々が、「お前もあの男の弟子の一人ではないのか」と言うと、ペトロは打ち消して、「違う」と言った。26 大祭司の僕で、ペトロに片方の耳を切り落とされた人の身内の者が言った。「園であの男と一緒にいるのを、わたしに見られたではないか。」27 ペトロは、再び打ち消した。するとすぐ、鶏が鳴いた。

聖書 新共同訳(C) 日本聖書協会 Japan Bible Society, Tokyo 1987, 1988

ヨハネによる福音書でイエスは「わたしは〇〇である」といくつもの比喻でご自身を語られたことが記されていました(出3章、イザヤ43章)。それが今日の場合、月明かりに照らされた夜の闇の中の「わたしである」という言葉につながっていきます。イエスご自身がわたしは「ナザレのイエス」、ここに確かにいると宣言されています。この方を通して神は逃げも隠れもせず、人びとの前に進み出て「誰を捜しているのか」と問いかけています。イエスは逮捕され十字架刑をに処せされます。しかしヨハネはイエスが自ら進んで歩まれている姿を注意深く記します。「真理はあなたがたを自由にする」(8:32)

後ずさりし、倒れ、逃げ、隠れ、勘違いし、捕らえ、攻撃し、裏切るのは人間たちです。イエスの受難の記事は、イエスをご自身を露わにされるのと同時に、さまざまな人びとがイエスにどう向き合った／向き合えなかったのか、もさらされていきます。人びとが神に向き合せて信頼し共に歩めないのはなぜか、そして、それならば神の替わりに何を頼みとするのか、もです。

イエスを捕らえようとした人びとは、無装備で逃げ隠れもしないイエスを捕まえるために力と数を揃え、大勢の兵士、下役を連れ立ってきました。ヨハネはユダヤとローマ双方の権力を持つ者たちが協力してイエスに立ち向かっているように描きます。イエスを疑い松明の灯りを掲げ武器を手に入れました。疑いと恐れ、憎しみからなる装備は過剰です。神の照らす光の中ではなく、暗闇の中で行い、闇に葬ろうとする業です。

アンナスは「外交と政治の手腕に長け、ローマ総督たちを相手に十九年在職した」人物だったと伝えられています。現職のカイアファがいながら大祭司と呼ばれ権力を保ち続ける実力者アンナスはイエスを縛り付けたまま尋問します。イエスが神殿で批判した(2:13-16)「商売」の利権者だったと言えます。イエスの周辺を探り、口を封じようとします。しかし公に表明するイエスに対し、平手打ちをさせ威圧するしかできません。「右の頬を打たれたら左の頬を向けなさい。」世において闇の力が振るわれます。権力と暴力は人間を威圧し声を上げさせず封じ、葬る仕方でも物を成し遂げようとします。イエスの十字架と復活はそのような闇の力に抗い打ち破る、いのちの道です。

ペトロはイエスへの忠実さと率直さ、勇ましさを発揮してイエスに立ち向かう者に剣で対抗しようとする。しかしイエスは「剣をさやに納めなさい。」と命じられました。ペトロの勇ましさもまたイエスの逮捕連行の出来事に直面した時、恐れに変わります。とっさに口をついて出た自己防衛の嘘は、イエスと自分を断ち切り、「違う」と打ち消し、イエスを独りきりにする(16:32)言葉になりました。しかしそれはペトロ自信をこそ自分が何者であるかを見失わせ、独りきりにすることになりました。鶏が鳴きます。しかし、散らされた者たちに、復活された主イエスは現れ、イエスでしか与えられない「平和」を与えられました。